

- 日 時：2016年9月28日（水）
- 場 所：米国・ワシントンDC
- 主 催：米国ホワイトハウス
- 参加国等：北極評議会メンバー8カ国、日本を含めたその他の14カ国、EU、先住民団体6団体

■ テーマ：

- ① 北極を取り巻く課題とその地域的・全球的影響
- ② 北極観測と観測データ共有の強化
- ③ 北極地域の強靱性と世界的な取組のための北極の科学的理解の促進
- ④ 北極科学を活かしたSTEM教育（理数科教育）による市民のエンパワーメント

■ 概 要：

北極に関する研究・科学の国際協力を強化し、政策決定に活かすことを目的に開催された。我が国からは松本洋平内閣府副大臣（海洋政策担当）が出席し、長年にわたる我が国の北極観測・研究の成果や、昨年度から開始した「北極域研究推進プロジェクト(ArCS)」について紹介し、各国が観測を強化し、得られた知見を共有し一致団結して北極問題へ対応すべき旨主張した。

本会合の成果として、共同声明が発表された。次回は2018年にEUが主催予定。



会合参加者の写真（提供：ホワイトハウス）

共同声明概要

- 北極の気候及び環境システムの急速な変化の原因と結果の理解を深めるために国際協力を強化する
- 北極と地球システムの観測、モデル、予測、技術開発、データへのオープンアクセスを強化する
- 北極の変化が北極以外の地域の異常気象や気候変動に与える影響についての研究を強化する
- 北極研究・観測にあたっては先住民・先住民コミュニティの知見・ノウハウを活用し、政策決定に活かす
- STEM教育（理数科教育）を通じた北極科学を促進する